

SPring-8運転・利用状況

財団法人高輝度光科学研究センター
所長室 計画調整グループ

平成13年2～3月の運転・利用実績

SPring-8は2月7日から第2サイクル、3月7日から第3サイクルの運転をそれぞれ4週間連続運転モードで実施した。第2～3サイクルでは挿入光源のrf-BPMによる停止や冷却水流量低下による停止、RFのサーキュレーターアークによる停止等があったが順調な運転で、総放射光利用運転時間（ユーザータイム）内での故障等による停止時間（down time）は約1.0%であった。

放射光利用実績については、実験された共同利用研究の課題は合計255件、利用研究者は1047名で、専用施設利用研究の課題は合計77件、利用研究者は331名にのぼった。

1. 装置運転関係

(1) 運転期間

第2サイクル（2/7(水)～3/2(金)）

第3サイクル（3/7(水)～3/30(金)）

(2) 運転時間の内訳

運転時間総計 約1113時間

装置の調整及びマシンスタディ 約153時間

放射光利用運転時間 約951時間

故障等によるdown time 約9時間

総放射光利用運転時間(ユーザータイム= +)

に対するdown timeの割合 約1.0%

(3) 運転スペック等

第2～3サイクル（マルチバンチ運転）

・160 bunch train × (12 - 1)

・定時入射 1日1回（15時）

・蓄積電流 1～99mA

(4) 主なdown timeの原因

地震時の軌道の変動によるInter lock

挿入光源rf-BPMによるInter lock

冷却水の流量低下によるInter lock

機器の誤操作によるInter lock

SR - RFサーキュレーターアーク

(5) トピックス

第2サイクルから、4週間連続運転モードのマシンスタディについては原則的にサイクルの第3週目の月～水曜日に行く。

第3サイクル（3月24日）での地震後の影響について、全系の加速器の点検・確認、管理区

域内の遮蔽等の点検・確認を行い異常の無いことを確認した。

2. 利用関係

(1) 放射光利用実験期間

第2サイクル（2/8(木)～2/19(月)）

（2/21(水)～3/2(金)）

第3サイクル（3/8(木)～3/19(月)）

（3/21(水)～3/30(金)）

(2) ビームライン利用状況

稼働ビームライン

共用ビームライン 17本

R&Dビームライン 3本

理研ビームライン 3本

原研ビームライン 3本

専用ビームライン 6本

加速器診断ビームライン 1本

共同利用研究課題 255件

共同利用研究者数 1047名

専用施設利用研究課題 77件

専用施設利用研究者数 331名

(3) トピックス

第3サイクル（3月24日）での地震後の影響について、全ビームラインの機器及びハッチ扉等の点検・確認を行い異常の無いことを確認した。

3. ニュースバル関係

ニュースバルの第2～3サイクルは、順調に利用運転（焼き出し運転含む）及びマシンスタディ等を行った。

(1) 運転期間（土日は基本的に運転停止）

第2サイクル（2/8(木)～3/2(金)）

第3サイクル（3/8(木)～3/30(金)）

今後の予定

(1) 4月4日から6月29日までサイクル間の運転停止期間・中間運転停止期間をはさみ、4週間連続運転モードの運転を3サイクル（第4～6サイクル）行う予定である。運転条件については決定しだい、ユーザーに報告する。